

子どもの メディア・リテラシー 研修会

— 学校・園の実践に活かす「読み解く力 / 伝える力」 —

「メディア=悪」ではありません。

子どもの未来のために「判断力」を育てることをいっしょに考えましょう！

禁止でも放任でもない。子どもが自分で考え、選び、困ったら相談できる力の育成を目指して。

ねらい

- ・子どものメディア利用を「禁止」だけで終わらせず、判断力・自己調整力を育てる視点を整理する
- ・情報の読み解き（受け手）と発信（送り手）を往復する「メディア・リテラシー」の基本を体験する
- ・学校・園ですぐ使える 問い／短時間ワーク／声かけを持ち帰る

参加して 得られる こと

- ✓ 「禁止一辺倒」にしない「つきあい方」指導の考え方
- ✓ 子どもの読み解きを支える問い
- ✓ 短時間でできるワーク
- ✓ 報道の現場視点を踏まえた発信の留意点



開催概要

日時：2026年 **8/20(木)** 13:30～16:00 (開場13:00)
 会場：くらしき作陽大学 (5号館304室) ※駐車場あり
 対象：小学校教員／幼稚園教諭／保育士／学生
 定員：50名 参加費：無料
 申込：QRコード (申込フォーム)
 主催：くらしき作陽大学 後援：倉敷市教育委員会

第1部【60分】講演＋ミニワーク

「子どもにメディアとの つきあい方を教えるということ」

講師：高橋 伸明
(くらしき作陽大学 子ども教育学部)



子どものメディア利用には不安が伴いますが、問題が起きた時だけの対応では限界があります。本講演では、メディアを悪者にせず、子どもが自分で考えて選ぶための「判断力」を育てるためのメディア・リテラシー教育について整理します。短い体験ワークを通して、授業・保育に接続できる問いや活動例を具体化します。

・「この情報、信じていい？」を支える観点、同じ出来事でも「伝え方」で印象が変わる体験

第2部【90分】特別講演＋鼎談

「メディアの現場から考える： 情報の読み解き方・伝え方」

講師：大橋 拓
(NHK岡山放送局)



ニュースやSNSの情報を、私たちはどのように受け取り、どう判断しているのか。マスメディアに携わる立場から、具体例をもとに「事実／解釈／印象」を分けて捉える視点や、発信の責任(相手への想像力・言葉の影響)を整理します。参加者との対話を通して、学校・園での扱い方(子どもへの問い返し／学級・園運営での伝え方)につなげます。

・SNSトラブル、誤情報、保護者対応…「現場の困り感」を素材に一緒に整理

申込

右のQRコード (申込フォーム) よりお申し込みください。(申込締切：8月18日) →
問い合わせ：くらしき作陽大学 事務局入試広報室 TEL：086-523-0808



